縹十五句

松岡隆子選

鴨を眠らせ逆光の湖昏し　佐藤郭子
日記にはマフラー失くすことをのみ　濱地恵理子
竜の玉慈しむ色ありとせば　峰岸よし子
霜夜更く夫入院の荷を揃へ　下平直子
あはあはと日向ぼこりや誕生日　染谷晴子
侘助やかんたんに死の話など　別府　優
山茶花のほど好き数をふり返る　志立佐知子
水の上の数定まらずかいつぶり　稲田節子
冬滝へ真向かふ心整へり　廣瀬ハツミ
煤逃げのやう高階のレストラン　室井千鶴子
枇杷咲いて三日つづきの海の凪　東條恭子
うやむやに蔓の枯れたる烏瓜　長束フミ子
二の酉の風のなきこと言ひあへる　北村敦子
ほどほどに夫と二人の冬籠　中島紀子
寒垢離の切火さ走る暁の闇　青木恭子